

やなけん!

台東区立谷中小学校 研究だより

第4号

令和5年 7月21日
台東区立谷中小学校
研究推進委員会

研究主題 明るく健康な児童の育成

【第1回研究授業報告】

【日時】6月21日(水)5校時 【対象】2年1組 25名
【授業者】木村 里佳 教諭 【領域】鬼遊び
【単元名】「走って かわして めげせ!宝島!」(体育館)
～低学年分科会の提案～

実態として、勝敗を受け入れることや、ルールを理解することに課題があった。そのため、ぐんぐん言葉をつかって前向きにゲームに取り組めるようにしたり、1年生の鬼遊びの流れやルールを基にして何をすればよいか分かりやすくしたりして、指導した。



【協議会より、成果と課題】

	成果	課題
【研究の視点(1)分かる】	<ul style="list-style-type: none">・1単位時間の流れを児童が理解して、スムーズに学習していた。・ルールについてトラブルなく進めることができているよかった。前時に出たルールの工夫を、授業の始めに話したことで、共通認識をもつことができていた。・児童の意見が反映されたルールがよかった。児童の意欲につながっていた。	
【研究の視点(2)できる】	<ul style="list-style-type: none">・ぐんぐんことばを使っている児童が多かった。・教員の声掛けが目当てに沿っていて、児童も嬉しそうだった。・相手チームのよさを児童が表現できているということは、技能ポイントを意識できていると思う。・タグが2本あることで勇気をもって進むことができていた。得点ができることで自信を付けられていた。・昨年の学習を生かした点がよかった。	<ul style="list-style-type: none">・後半で作戦を変えようとしていたところがあったので、一つの作戦を深めて結果を深めてもよいかもかもしれない。・おとり作戦ができていたことが、振り返りでも述べられるとよかったのではないかな。
【研究の視点(3)関わる】	<ul style="list-style-type: none">・先に行った子の真似をしている子もいて、個々の工夫がたくさん見られた。・言葉かけの指導のおかげで、相手チームの良い所を懸命に探そうとする態度がよかった。・負けてもよい笑顔で終わっていた。	<ul style="list-style-type: none">・ゲーム中は、懸命に走っていたので、友達によい所を伝えることができない。チームタイムや振り返りで言えばよいと思った。・具体的な言葉でよいところを伝えたり、振り返りをしたりするのが、発達段階的に難しそうだった。
その他	<ul style="list-style-type: none">・ICT得点板を教員で共有したい。→タブレットのプライムドライブ(研究フォルダ)に入っているものをダウンロードして、使えるようにする。・勝敗を受け入れるとは、勝った子はどのように受け入れる工夫をしたらよいか。→素直に喜ぶ、勝ったゲームの内容を高められるように指導する。	

～講師(台東区教育委員会指導課指導主事 野中 由香 先生)より～

勝敗を受け入れることができない児童と聞いていたが、今日は受け入れることができていた。児童のためにどのような授業にしたらよいか考えて指導した成果がしっかりと出ていた。

～授業者(木村里佳教諭)より～

今年度の最初の校内研究ということで、昨年度の研究の成果を引き継いでいこうと考え、研究を進めました。単元を通して同じ流れをつくり、子供も速やかに動くことができました。昨年度の研究が児童に身につけているのがよくわかりました。また、子供の良いところをたくさんほめる声を出していこうと私自身、意識しました。勝敗を受け入れることについては、今後も課題として体育の学習を進めていきます。